

氏名	羽 崎 寿 彦
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1 9 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和37年 6 月 6 日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学 位 論 文 題 目	腱の損傷とその浮腫に関する研究
論 文 審 査 委 員	教授 児 玉 俊 夫 教授 砂 田 輝 武 教授 陣内伝之助

学 位 論 文 内 容 要 旨

腱の浮腫の系統的研究は未開野の状態である。そこで、腱の外傷性反応を解明することは、また後療法開始の時期を決定する重要な因子となることが考えられる。私は家兎の腱、筋肉、皮膚に種々の損傷を与え、Abderhalden 乾燥器及び Torsion-balance を用いて、各々の浮腫の時間的推移を観察した。その結果、腱縫合群の絹糸群、鋼線群共に、浮腫は術後2週の終り前後で最高となり、6週で消褪することを認めた。これは切断、圧挫に於ても同様の傾向を示した。一方組織学的所見では、細胞成分の増減と浮腫の大小とは、一致することを認めた。なお、絹糸群は鋼線群よりも、浮腫の程度が大であり、これは組織学的所見に一致する。このデータから、後療法開始の時期については、次のような結論程度は云って良いと考える。

即ち、1. 鋼線群が絹糸群よりも刺激性が少いために、縫合材料として勝る。

2. 腱の損傷後2—3週頃より、早期運動練習開始が妥当である。

昭和33年7月 第2回手の外科学会総会に於て発表

昭和34年2月 岡山医学会雑誌第71巻2の2号(761号)に掲載

論文審査の結果の要旨

羽崎寿彦提出の「腱の損傷とその浮腫に関する研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は次の如くである。

著者は腱の浮腫を Abderhalden 乾燥器による水分の脱出により定量している。腱の浮腫は挫滅が鋭切より、絹糸縫合の方が鋼線によるものより浮腫が大であり、また浮腫は術後第2週が最大で、6週でほぼ消褪する等の結果を得ているが、これらは臨床の経験とよく一致する。腱手術後の理学療法も、最初の7—10日間は必ず安静を保たねばならぬことを裏づけされている。

以上のように本研究は学術上新知見を加えたもので、医学博士の学位を授与するに値するものと認める。